

## 平成25年度 学内教育GPプログラム事業経費計画書（継続型）

学 長 殿

申請者（プログラム代表者名）

氏 名 千葉和義



(部局長等の承認)

私は下記の申請について了承します

教育機構長 耳塚寛明

人間文化創成科学研究科長 石口彰



事業名称	小学校理科を修得する「CST養成基礎講座」の開設・実施
取組代表者名 担当者名	サイエンス&エデュケーションセンター長 千葉和義 サイエンス&エデュケーションセンター特任准教授 垣内康孝 サイエンス&エデュケーションセンター特任講師 堀田のぞみ
事業内容	<p>* 事業内容については、大学全体の波及効果や支援期間後の見通しも含め、具体的に記入してください。なお、計画書は適宜広げて（本用紙を含め2枚以内）記入してください。</p> <p>【実施の背景】</p> <p>小学校において、理科に苦手感を持つ教員が大半を占めている現状は、大きな問題となっている。小学校教員の理科指導力を向上するには地域の理科教育を担うリーダー教員の養成が必要で、その候補は理科に熱意ある現職教員と理学部出身の学生である。このような背景から、平成21年度より競争型プログラム「理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業」が開始された。</p> <p>【学外の競争的資金によるこれまでの実施状況】</p> <p>本学は平成21年度に採択を受け、理系大学院生および現職小学校教員を対象としたプログラムを開始した。プログラムは、理科の教科教育力を向上する「CST理科教育法Ⅰ/Ⅱ」、自由研究指導に必要な知識・スキルを修得する「自由研究指導法」、教員研修開催に必要なスキル、教材開発、外部資金を獲得するためのスキルを修得する「教員研修実践論」、さらに理科に関して深く学校現場を学ぶ「教職インターンシップ」（学生のみ）の5科目からなる。大学院生を対象としたプログラムは「コア・サイエンス・ティーチャー（CST）副専攻」を設置し、実施した。</p> <p>平成24年度までの4年間で、現職小学校教員と大学院生・ポスドクを併せて延べ189名が受講し、平成24年11月末現在で120名のCSTを認定した。この認定数は他の実施機関の規模を大きく凌駕しており科学技術振興機構、文部科学省から高く評価されており「平成23年度文部科学省科学技術白書」に取り上げられた。本事業は支援期間終了後も引き続き継続実施することが締結した実施計画書に明記してある（補足資料1-16ページ）。</p>

	<p><b>【事業計画】</b></p> <p>「CST 養成基礎講座」(2単位)を開設し、平成25年度夏季に3日間の集中講義として実施する(7.5時間×3日)。上述した5科目から内容を厳選して以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科授業および理科教員研修で行う理科実験に関する講義・演習(12時間)</li> <li>・自由研究指導法(4.5時間)</li> <li>・教材開発法(2.5時間)</li> <li>・地域資源活用法(1.5時間)</li> <li>・小学校教育現場の実際(実務経験者による講義)(2時間)</li> </ul> <p>計 22.5時間</p> <p>実務経験者による指導は元・全国小学校理科研究協議会長であり、本学客員教授である林四郎氏に依頼する。受講者数は20名程度とし、講義・演習は文京区立音羽中学校運動場内講義棟で行う。実技試験、筆記試験および提出課題に基づき修了判定を行う。判定基準は現在実施中の基準に準ずる(補足資料2)。</p> <p><b>【大学全体の波及効果】</b></p> <p>平成21年度より開始したCST副専攻に対する問い合わせ件数は年々増加しており、学生の本プログラムへの興味・関心や教育現場に就くことへの意欲は高い。また、近年高まるCSRの一環として学校教育に関わる企業が増加していることから、本講座の受講による学生の就業力育成も期待できる(「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」事業との関連)。</p> <p><b>【支援期間終了後の見通し】</b></p> <p>理数系教員支援拠点構築事業において本学は、支援期間終了後の平成25-26年度まで事業継続を約束している(補足資料1)。したがって、ぜひ本GPプログラムのご支援を賜りたい。資金面で足りない部分の補充と、本GPプログラム終了後も本事業を継続実施するために、学外の競争的資金獲得も新たに目指す。</p>
積算内訳	<p>1件、50万円以内(具体的に記入願います)</p> <p>非常勤講師(講義者) @5,700円×2h×15回×1人=171,000円</p> <p>AA(講義補助者) @1,200円×8h(1日)×3日×2人=57,600円</p> <p>謝金 @5,700円×3h=17,100円 (林四郎・元全国小学校理科研究協議会長 講師謝金として)</p> <p>物品費(実習に用いる消耗品代として) 214,300円 ※ 気体検知管(酸素、二酸化炭素LおよびH)95,000円、気体採取器(2個)38,000円、塩酸等薬品類28,230円、銅パイプ24,000円、手回し発電機14400円、等</p> <p>印刷費(テキスト印刷代として) 40,000円</p> <p>計 500,000円</p>

**【問合せ先】**

教務チーム 教務企画係(内線5139)

E-mail: [kyouiku.kikaku@cc.ocha.ac.jp](mailto:kyouiku.kikaku@cc.ocha.ac.jp)